2023年7月　園長だより

2023年7月20日(木)
敦賀教会幼稚園　園長　有岡史季

「主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。」
(旧約聖書　詩編5編4節より・・・7月の聖句)

この歳になっても、朝が苦手です。夜の方が文章を書いたり、本を読んだりすることが、なんとなく捗る気がして、夜に作業を進めて翌朝に後悔する・・・なんてことを未だに続けています。でも、牧師という仕事をしている人には、そういう人が多いような気がします。聖書のお話を作ったり、研究をしたりするのは、完全個人プレーなので、外部との交流が少ない夜の方が適しているのだと思います。そういえば昔、「私の敬愛する〇〇先生の書斎からは午前3時になっても、よく部屋の明かりが漏れていた。大教会の牧師になられてからも、いつも遅くまで聖書の学びを欠かさなかった〇〇先生の姿に、私は尊敬の念を持っていた」と話した人がいましたが、ストレスフリーを志向する若年世代として「そういう尊敬の仕方は良くないなぁ」と感じたことを憶えています。深夜まで無茶して聖書の学びを深めるよりも、毎朝気持ち良く起床して「今日も新しい1日をありがとう、神様」と素直に言える方が、よっぽど健康的だし、神様も喜ぶんじゃないかと思います。毎日の夜明けを恨めしく思うのではなく、感謝できるような、そんな牧師になれればいいなぁ、と思いつつ・・・、習慣を変えるのは、なかなか難しいですね。

キリスト教が、今を生きる私たちに与えたものは、多々あります。基本的人権の理解、資本主義や民主主義などの基本制度、社会福祉の考え方や、音楽・絵画の文化などなど。西洋由来の主義思想は、大抵キリスト教が大元になっています。中でも、私たちの生活に欠かせなくなっている暦・カレンダーは重要ですね。少々神話チックなお話で恐縮ですが、聖書の中で最も古い出来事を記している「創世記」によれば、神様は6日間で世界を創造し、7日目に休んで、その休んだ日を「安息日」として聖別（特別なものとして“取り分ける”こと）されました。端的に言えば、これが1週間の始まりです。神様は世界を作り、昼夜を分けられ、生き物を創造され、そして、安息日を設けて7日間というリズムを刻まれた、とキリスト教では考えます。

私たちが当たり前のように過ごしている1週間ですが、これは人類史においても、なかなか画期的なものだと言えます。もしも1週間の区切りが無ければ、私たちは多分、目処の立たない日々を漫然と過ごすことになったでしょう。メリハリもなく緩急もない。もちろん、1週間が7日じゃ短いとか長いとか、週末だけじゃ休みが少ないとか多いとか、個々人の事情によって、その辺の評価は分かれると思いますが、でも1週間というリズムが、私たちの社会生活を円滑にし、頑張るにしても、休息するにしても、ちょうど良い見通しとなっていることは確かかと思います。

そして、教会では毎週日曜の朝ごとに礼拝をしています。毎週欠かさず「礼拝を守る」ことで1週間のリズムを保っています。馴染んでくると、この習慣がなかなかクセになると言いますか、心地良く感じられるようになります（時々は面倒と思えることもありますが・・・）。神様が取り分けてくださった日曜日に、忙しない日常から離れて教会の長椅子に座り、ホッと一息、心を落ち着かせ、これまでの1週間を思い起こし、これからの1週間に思いを馳せる。そんな一連の所作を、側から見ていると「祈っている」という風に映るのだと思います。教会にとって、クリスチャンにとって、この週イチ礼拝での「祈っている」という営みは、とても大切なものです。夏休み中、教会学校はお休みですが、日曜日の礼拝は行っています。子ども達が集まるお部屋もあって、お菓子を食べたり、おもちゃで遊んだり、思い思いに過ごします。ご都合良ければ是非どうぞ。天地創造にまで遡るキリスト教の週イチ朝の習慣をご一緒できれば幸いです。

また、ご家庭においても1週間のリズムと、毎朝の気持ち良い目覚めを守れるよう、お過ごしください。「神様、朝ごとに、その日1日の願いと希望を聞いてください」と言うのが、7月聖句のメッセージです。神様に毎朝祈るのは、かなり高レベルな習慣ですが・・・、ただ、掛け替えのない夏休みの1日1日を満喫できるように、毎朝のひと時を、お子様と丁寧に過ごして頂ければと思います。きっと楽しい計画が詰まっている夏休みだと思います。その計画一つ一つが、神様によって十全に導かれ、たくさんの良い思い出となりますように。心からお祈り致します。